

平成 19 年度 第 3 回海洋開発委員会 幹事会 議事録 (案)

日 時：2007 年 9 月 28 日 (水) 14:30～17:30

場 所：土木学会 C 会議室

出席者：関本幹事長，木村，五明，柵瀬，古川，水谷，矢内の各委員兼幹事，伊藤，加藤，鈴木，森屋の各幹事

議事内容

1. 委員長挨拶

委員長欠席のため省略

2. 前回議事録の確認

内容に関し，特に異議なし。

3. 海洋開発委員会の評価について (関本幹事長)

平成 18 年度実績の委員会活動度評価の結果は以下のとおり。

評価項目Ⅰ：参加者数に関するもの	: B,
評価項目Ⅱ：委員会の年間粗収益に関するもの	: B,
評価項目Ⅲ：活動内容に対する評価	: B,
総合評価 : I, II, IIIのうち最上位評価ランク	: B

4. 第 33 回シンポジウムについて (矢内，木村，五明，水谷，関本)

会場関係：倉敷芸文館

- 会場費 (前日準備・時間外使用，冷房費) 509,160 円を支払った。
- 音響機器は値段交渉中 (岡山以外)，岡山大から借りるなど工夫を試みる
- PC は幹事による持込とする。
- 総額 84 万円程度におさめたい。

特別セッション

- ISOPE を参考にテーマ探索した結果として 7 例とその座長候補者が示された。
- 各テーマでクローズさせるだけのキーパーソンを集めるのが困難ではないか。
- 基調講演的に多様な話題を講演してもらい，2009 年のテーマを探ってもよいのではないか。
- 企画セッション的でもよいのではないか。
- 海洋基本法と土木の関係を議論してはどうか。
- 海洋基本法については講演会が予定されている。
- 外海水小委員会で特別セッションできないか。小委員会でもんでみる。
- 「大水深海域の水産利用その 2」は水産研の明田氏にオガナゲルを依頼し，了承して頂いた。

- テーマ案「港町を核とした地域活性化のありかたについて」が議論された。
- 2年継続には厳しい、オープニングセッションに向いているという意見が多かった
- WAVE が調査を実施していたので、依頼できるかもしれない。
- WAVE のキーマンは、武工大の高松先生
- 倉敷運河については玉美大に詳しい先生がいる。
- 地域活性化として、漁港を核とした研究を北大グループ(長野氏ら)が実施している。
- 気候変動も興味深い、海岸工学委員会で地球温暖化適応対策検討小委員会が立ち上がるので、被る可能性がある。この点が問題。
- 海洋エネルギーは九大経塚先生にオガナイザーを頼めるかもしれない。
- 佐賀大も海洋エネルギーの研究が活発である。
- 今回、テーマが絞りきれなかったため、次回絞り込む。

投稿要領の見直し (討議の追記)

- 用紙に記載、WEB にアップロードする。期間内に WEB で答える。
- アップロードには学生アルバイトが活用できる。
- 議論の結果、討議については、現行のままとする。
- 論文修正の場合が必要ではないか。論文 WG で検討する。

会告

- 会告の案文が示され、軽微な修正があったのみで了承された。

5. 第 34 回海洋開発シンポジウム開催場所について (矢内, 東江, 伊藤)

- 松山, 沖縄, 横浜についての調査結果が報告された。
- 費用面, 協力体制などから、松山に決定した。

6. 小委員会からの報告

改革小委員会

- 特別セッションについては 4. に記載済。
- 座長企画セッションの会告案が示され、議論された。
- 部分修正がなされた。
- 座長企画セッションの査読は幹事会で実施し、公平性を保つ
- 企画を不採択する場合は、理由を示す基準が必要である。
- 基準は関本幹事長が素案を作成する。
- 海洋技術賞の新設に関する報告が成された。
- これは来年 5 月の委員会に諮ることになった。
- 論文増加のアクションプランが説明された。
- その中で、本省関係者を幹事会に加えるアイデアに対し、役割を明確にしないと機能しないと意見が出た。

外海水小委員会

- 事例調査およびケーススタディの進行状況に関する報告がなされた。

アセット小委員会

- 9月25日に承認された。
- 10月中旬に委員会開催の予定。

順応的管理小委員会

- 平成19年度活動計画案、趣意書が示された。
- 活動計画としてパネル展などが紹介された。
- 活動期間は平成22年3月まで。

7. 海洋工学シンポジウムについて

- 第5回実行委員会議事録案が示された。
- パネルディスカッション、オガナイズドセッション式間する報告がなされた。

12. その他

- 海洋基本法制定記念大会で高橋委員長が用いる資料の紹介があった。
- その中で、海洋利用の促進において土木がイニシアチブをとれるものがあるかという意見があった。
- 関本幹事長より、委員長の考え「在来技術ではなく、イニシアチブな技術開発が必要である」が紹介された。
- 次回幹事会は後日連絡。